



ただら

第22号
(2024年1月発行)

島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦

<http://oushimaned.main.jp>

E-mail: info@oushimaned.main.jp



(第9回 中四国地区同窓会交流会ご出席の皆さん:前列中央が岩永学長)



(記念講演に小泉 凡県立大名誉教授)



(交流会を準備した島根の実行委員の皆さん)

昨年の島根同窓会の最大行事は、島根で行われた中国四国地区の同窓会交流会を成功させるために、開催地の特徴を十二分に生かし創意を凝らした取り組みを行ったことであった。

今回の交流会は、放送大学岩永雅也学長が就任後初めて参加され、「放送大学—最近の話題—」として源氏検討中の今後大学の在り方、①ポストコロナ期での大学体制へ、②ICT・AIの拡大、③二つの環境変化の下、大学については何を目指し、どう変わって行くべきなのかについて報告であった。

また、松江の特徴の一つに、小泉八雲のひ孫小泉凡氏の記念講演「小泉八雲今を生きる」で紹介された。八雲は五感で感じた松江の生活文化で、自分だけの価値観で物事を解釈せず、多様性を尊重する心「オープンマインド」により、様々な価値を認め合う街をめざしたというものであった。

交流会は各同窓会から、特長ある取り組みの紹介と、直面している課題について交流した。

新年のご挨拶を申し上げます 役員一同

今年と同窓会存続の危機！

会長 竹下靖彦



あけましておめでとうございます。

昨年は皆さまにはコロナ禍の中で、活動が制限される中にもかかわらずご協力いただき、誠にありがとうございました。

毎年ながら新しい年号を迎える度に、本当に新しい年を迎えたのか自問自答しているにもかかわらず、出会う人に対して平然と新年のご挨拶をしている念頭行事です。

理由は、新年になっても世界は相も変わらず平和は収まらず、殺人行為が正当化され、弱者が犠牲となっているし、国内では国民生活は改善するどころか、新年になってますます悪化の一途を招いて、勝ち組負け組の格差が拡大している状況だから。

安部派を初めに自民党主要な派閥による裏金疑惑の腐敗政治、大軍拡、社会保障切下げ、大阪万博への公金投入などなどまさに失われた30年を実感させる社会情勢を招いている。

昨年は9年に1度巡ってくる、中国四国地区同窓会の交流会が島根の担当となり、4月の総会より本格的な取り組みを開始し、歴史と文化の街にふさわしい交流会にするべく、役員以外に会員の皆さんに実行委員として協力を仰ぎ、準備に取りくんでいたところ、放送大学岩永雅也学長、同窓会連合会南谷会長が参加されることが判明したことから、なおさらおぎなりの交流会ではなく、おもてなしを含めた松江を体感して頂くため、全力を挙げて準備をしました結果、連合会を始め各同窓会参加者の皆さんから称賛の声を頂きました。実行委員皆さまのご支援にて大役を果たすことが出来、委員の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

学位記授与式、卒業を祝う会、アカデミック・ガウン着用で記念写真、社会貢献活動植林ボランティア、中四国地区交流会、山陰地区最大の若者への大交流会などに取り組みましたが、相変わらずコロナ禍の中で、会員の皆さんへの直接のサービスが減少しました。それでも新規に同窓会が中心になり、新しく学生団体「古文書を読む会」を立ち上げ、市民・学生・同窓会員の皆さんが参加されています。

本年2024年は、同窓会創設以来の会員34人(46%)の方が3年間を経過するため、継続更新を迎える年になります。引き続き会員継続をお願いします。もしも会員の大幅な減少を招きまですと同窓会は存続危機を迎えます。

何卒皆さまのご協力を切にお願いします。

両義的なプラモデルの時間

島根学習センター
所長 出口 顯



新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

昨年の四月から務め始めた学習センターの周囲を昼休みに散歩するのが日課になりつつあるのだが、職場のある建物を出てすぐの商店街に老舗のお茶屋があり、その店頭で、メッサーシュミットとかユンカーズなど第二次世界大戦の戦闘機をはじめとする、昔懐かしいプラモデルが置いてある。社長の趣味だそうで、未開封のプラモデルの箱は千近くもあり、作りきれないだろうから、店頭で並べ希望者には売っているのだと書かれていた。

このことを写真付きで学生時代の友人にラインしたら、すぐ返事が返ってきた。東京の世田谷に住んでいるその友人宅の近くに、プラモデル専門店があるのだが、20年以上しまったままだそうだ。シャッターはおりていないがガラスは汚れたままでそのまま中のぞける。

見ると田宮のプラモデルが山のように陳列されていて不思議な佇まいらしい。ビルの中にあるのではなく一軒家だが、人が住んでいるかどうかはわからないそうだ。その少し先に中学校があり、下校時になると必ずこのプラモデル店を覗いていく生徒が少なからずいるようで、それがずっと続いているようなのだ。

友人が大学を卒業するまで住んでいた家は上野の繁華街にあり、そこであればこのようなプラモデル屋があってもおかしくはなさそうだ。勝手なイメージを膨らませていたが、そうではなく場所は世田谷の高級住宅街の近くである。このプラモデル屋の存在を文化人類学的に言えばどうなると思うと尋ねられ、しばし考えてみた。

まず思い浮かんだのは、動く時間と止まっている時間という二項対立があるということだろう。プラモデル屋の周りの世界は日常の時間が流れており、しかも中学生が学校に通い、その顔ぶれは毎年変わっていく。しかしプラモデル店の時間は止まったままである。

しかしこのプラモデル店は閉店しているが、中を覗けば商品がみえるわけで、あたかも営業しているかのようだ。閉まっているが開いているという両義的な存在なのである。営業していないが営業中であるかのようの中をのぞけるが故に、田宮のプラモデルが販売されていた頃をあたかも切り取り固定化し、そこを訪れる生徒たちに見せている。それはあたかもタイムカプセル(過去と現在を行き来できるわけではないからタイムマシンではない)のようである。

この両義的時間というのは同窓会の会員の多くの方にも言えるのではないだろうか。

放送大学の卒業生であるが同時に在生でもあるという両義性。両義性という言葉は人口に膾炙させたのは山口昌男という文化人類学者だが、両義性は日常性を越えた力を有すると山口は言った。

では皆さんはどのような力をお持ちなのだろうか。新年にあたりあらためて考えてみてはいかがだろうか。

2023年度

第1学期学位記授与式が行われました



2023年度第1学期学位記授与式が、9月24日(日)午前10:40分から松江市民活動センター(STIKビル)5階「交流ホール」にて、三密を配慮しセンター講義室ではなく広い会場で開催された。

今学期は教養学部16名の方が学士の学位記を授与され、当日の授与式には6名の方が出席し、出口所長からひとり一人に学位記を授与された。

出口所長から卒業生に対しお祝いの言葉「面接授業の中止や単位認定試験の実施形態の変更、コロナ禍に翻弄されながら困難を乗り越えてのご卒業で、その努力と熱意に敬意を表したい」と祝辞を述べられた。

次に来賓として同窓会長竹下会長より卒業された皆様へ「職場、地域、家庭にあって学生生活を送られ、その間多くのご経験や幾多の困難を克服されて学士の学位を取得されましたことに敬意を称します。今後は学びを生かして社会に還元をしてください」「また卒業生の皆様全員に同窓会にご入会下さい」とお祝いの挨拶があった。

卒業生代表挨拶は、釜井由美子さんが担当で「10数年前高卒後社会人として働く中で、更なる夢を叶えるため、大学卒の資格取得が私のスキルアップとなればと入学したが、介護と学生死活的両立は大変でしたが、大学で新しいことを学ぶ楽しさで無事に続けられた」と挨拶された。



近年の学位記授与式の特徴は、学生の皆さんが段々と授与式に対する思いが変

化してきたのではないだろうか？

私が思うには一般入学ではなく学士入学の学生が多くなり、すでに他大学や専門学校にて卒業式を経験していることと、在宅での履修となり学生同士の交流がないことから、仲間意識が希薄となっているのではないかと推察する。

ともあれ、学位記授与式を盛り上げるためにも同窓会の出番です。会員の皆さんどうか可能な限り学位記授与式に出かけてください。

(記：竹下)



2023年 第1学期 卒業を祝う会を開催



2023年度第1学期卒業を祝う会が、学位記授与式に引き続き午前11:40分から同5階「交流ホール」において、出口所長、尾崎客員教員、藤嶋学友会長を招きして開催した。

祝う会は、石川副会長が司会を担当し、竹下会長より自身の経験を交えた話があり、学習環境も変わり大変だったと思います。放送大学は、年配者が多く在学する、世界に類のない珍しい大学です。総務省及び文科省から助成金が支給されており、助成金を受けて大学を卒業されたことから、何か地域に貢献できることはないか探求していただきたい。そのためにも同窓会に入会されることを期待しています。とお祝いの挨拶があった。

続いて出口所長、尾崎客員教員、藤嶋学友会長から卒業のお祝いが述べられて、参加者の皆さんから学生生活と卒業できたことのエピソードが楽しく語られ、和やかな祝う会であった。

祝う会終了後の食事会は、交流ホールから学習センター第2講義室にて、卒業生の方を囲んで和やかに開催した。

食事会後はアカデミック・ガウンを試着してセミプロの方を招いて記念撮影に移り、希望されていた2人の方に対し撮影され、ともに同窓会に入会された。

学位記授与者の声

放送授業の思い出

出雲市 長島 博



放送授業で一番の思い出に残っているのは、中東に詳しい高橋先生の、「国際理解のために」の授業です。今高橋先生のYouTubeで、イスラエル、ハマス戦争について解説しておられるので、よく拝見しています。

「国際理解のために」の授業では、ユダヤ教、キリスト教の位置関係とか、ペルシャ帝国とユダヤ教とか、ユダヤ教徒バビロン捕虜とか、旧約聖書でのノアの箱舟の話が、中東の2千年ぐらいの前のギルガメッシュ神話に同じであるとかです。

中東は、今から4千年ぐらい前に、チグリスユーフラテス川沿いに、メソポタミア文明を生み出しました。ウルの都市国家とか、シュメール、アッシリア、バビロンとか、有名なのは、レバロン杉、ヒッタイトの鉄、楔形文字でしょう。アケメネス朝ペルシャとかアレキサンダー大王は、勉強したことがあります。

現在の世界では、イスラエル、ハマス戦争で大変です。世界各地でテロが起こりそうですが、ペルシャ湾が封鎖されたら、日本にサウジアラビア等の原油が入ってこなくなりますので、大変なことになるでしょう。



2023年度第1学期に学位記を授与された16名の皆さんに、会報たたらに投稿をお願いしましたが、結果として2名の方となりました。「授与者の声」にご協力いただきました。

紙上を借りて厚くお礼を申し上げます。

「学びはいつでも青春」

松江市 伊瀬孝子

アカデミック・ガウンに身を包み、厳かな気持ちで「情報コース」を卒業いたしました。「人間と文化コース」に続き2度目の卒業でした。

放送大学で学ぶきっかけは、60代半ばの頃、リカレント教育というフレーズを知ったことでした。そしてこれまでに振り返ってみた時に、ふと何かやり残したことは無いか、したくても出来なかったことは無いかと考えるようになりました。

私が高校3年の頃、たまたまつけたテレビで、日本はこれからコンピュータ時代に入るという内容の番組を見て大きな衝撃を受けました。そして大学進学を止め、IBM日本コンピュータ学院に入学したいことを両親に相談したところ猛反対されましたが、我が儘を通したことを思い出しました。

この事は月日経ってもずっと私の頭の片隅に忘れることなくありました。そして放送大学の素晴らしいキャッチフレーズ「学びたい！それが入学資格です」に惹かれて、入学を決意したのです。まだ、仕事をしていましたので、勉強は早朝、または深夜となりテキストを何度も繰り返し読み返し、放送授業を聞きがなりました。面接授業は、素晴らしい専門分野の先生方から直接教をいただくことが出来るとても充実した内容と時間です。新しい事にチャレンジすることは、少し勇気が要りますがその分ワクワク感も味わえます。

私は、まだまだこれからやりたいことが沢山あります。自分の限りある時間を有効に活用する事を考え、「なりたい自分を自分自身でデザインする」生き方をライフワークといたし、無限の可能性のある放送大学で、これからも学び続けていこうと思っています。



(学位記を授与された皆さん)

第9回 放送大学同窓会 中四国地区交流会島根大会開催



神々が集う出雲の10月。松江市のサンラポーむらくもを会場に、第9回「放送大学中四国地区同窓会交流会」が10月28(土)・29日(日)の2日間、放送大学本部岩永学長の御来臨を賜り、39名の神々が神議り(かむはかり)の意見交換、情報交換を行った。

開催された2日間の日程を追って、この「放送大学同窓会中国四国地区交流会(島根大会)」の様子を綴ってみた。(記:知野見孝信)

★10月28日(一日目) 晴れ

中四国のすべての同窓会が参加した善男善女の神様たちで、サンラポーむらくも2階「瑞雲の間」は、たちまちに賑やかで和気あいあいの、神在月の会場となった。



一寸時間のズレはあったが、竹下島根同窓会長の歓迎挨拶から開催となった。続いて主催地島根SC出口所長による歓迎挨拶・来賓紹介・

交流会の日程説明があり、岩永雅也学長からは「放送大学一最近の話題一」と題

して、紙資料とプロジェクターによつての「放送大学学長講演」が行われた。参加者は間近に学長と接するのは初めてで、興奮気味であった。講演の、「学生調査2020より」という項目では、何故放送大学を選んだかの理由、調査内容の説明があった。そのなかでは「インターネットで学習できるから64.0%」とか、「放送科目はネットでも配信され、7割以上の学生が放送ではなくネット配信(含radiko)を利用



して「直接視聴は1割未満」などが説明され、「ああヤッパリ、今の時代を反映したものだナア」という感慨を抱きながら、映しだされたプロジェクターのスクリーンを見詰めていた。

また放送大学への「入学時学歴別調査」という項目でも、1983年(昭和58)開学当時では、大多数の62.8%が高校・旧制中学卒業生で占められていたのが、現在では46.2%が大学・大学院卒業の人達であるということ、コレもまた時代の流れの一つであると感じた。

続いて南谷放送大学同窓会連合会長からは、



「放送大学チャレンジ募金」についての趣意説明が行われた。

コレは2023年の今年が、放送大学設立40周年になり、「ひとりひとりに最適な学びを放送大学から」を基本理念としたVision実現に向けての支援・記念募金というものであって、「皆様の応援をお願い申し上げます」ということであつた。

今回の交流会島根大会を記念して、小泉八雲のひ孫にあたる島根県立大学・短期大学名誉教授小泉凡氏の「小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)今を生きる!」という講演が続いてあつた。



八雲の精神的支柱である「オープンマインド」(多様性を尊重する心)を表現するため、「子ども塾」を通じて、アメリカや世界各地でのアート展等を開催、活動されている様子が紹介された。

配布された資料のなかに書いてあつた「八雲がもつめたもの好きなもの・嫌いなもの」の中で、好きなものには、ゆうやけ・遊泳・寂しい墓・・・松江・日御碕・美保関が在り、嫌いなものには、嘘つき・弱いものいじめ・・・ニューヨークが在つた。

横浜、松江、熊本、神戸、東京と、八雲は日本に住んだが、好きなもののなかには松江と日御碕と美保関があつた。(横浜も熊本も神戸も東京もその名前が無い)。そして嫌いなものになかにはニューヨークが在つた。

1904年(明治37)、八雲は狭心症発作の

ため54歳で、東京の豊多摩郡大久保村（現在の新宿区大久保）で亡くなったが、そのとき八雲の魂の底にはキット、大好きだった松江や日御碕や美保関の情景が、まぼろしのように駆け廻っていたと思う。ちなみに法名は「正覚院殿浄華八雲居士」であった。

交流会のプログラムは、今回のメインである連合会と、中四国地区同窓会との情報、意見交換会へと移った。

徳島・香川・愛媛・・・の順に各同窓会から事前に提出された「情報交換会報告シート」による活動報告が行われたが、アカデミック・ガウンを着て記念



写真を撮るなどの、ユニークな活動を行っている香川ほうゆう同窓会からは、香川大学学長である岡市友利先生の提唱による、「丸亀手島香川たか体験会」という、瀬戸の島々を訪問して島の方との交流を深める活動をおこなっている報告があった。更に香川同窓会では、卒業論文を書く人を応援するという趣旨の「雲外蒼天賞」という賞も独自に取り組んでいて、同窓会からの賞金1万円が贈られるということであった。

休憩時間にはおもてなしとして松江のお茶文化である、文化部と実行委員による抹茶と生菓子「若草」を手作りした古帛紗に載せ参加者に提供し、議論をなじめせ皆さんの顔が恵比寿を醸し出していた。茶道免許者の指導のもと文化部の皆さんによる心を込めた一服で、おいしいと絶賛でした。



南谷連合会長の乾杯ではじまった懇親会では、竹下会長が、石見神楽のおめでたい舞「恵比寿」を舞われた。満面の笑みを湛えた恵比寿様が、腰にした魚籠(びく)から両手いっぱい握られた福飴が撒かれると、福を手にした人たちの歓声と和やかな笑顔が懇親会場いっぱい広がった。



また写真撮影においては、学長と一緒に各同

窓会単位で肩を組んだり、握手をしたり。Vサインで喜びあったりして、本当に和やかな懇親会風景であった。

香川から始まった「放送大学同窓会中国・四国地区交流会」も、今回の「第9回島根大会」でもって中四国9県を一巡して、次回の開催地香川の宮北会長と、竹下会長とが檀上のステージにおいて固い握手を交わし、シッカリと引継ぎが行われた。

交流会お開きの挨拶では、須藤連合会副会長ご自身の作詞作曲の、祝い謡が唄われるなど、最後まで楽しい盛り上がりを見せた。

★10月29日(2日目)曇り

低く垂れ込んだ雲が、いかにも『出雲國風土記』にある「出雲と號くる所以は、名を説くこと國の如し」を想わせる朝からの天候である。

三密を避けるため1班、香川・愛媛・高知(ピンク)。2班、徳島・広島・山口(赤)。3班、岡山・鳥取(緑)に色分けされたネーム札の色紐別に、今日の予定「国宝松江城周辺の歴史・文化史跡を探索」へ出発した。

戦災を逃れた松江の街には、松江城築城1611年(慶長16)当時の街並みが残っており、「日本の道100選」にも登録されているというその歴史区の道、塩見縄手を、ガイドさんの説明を聴きながら歩いた。

ガイドさんの説明によると丁度、昨日28日と今日の29日は、日本三大茶会(京都・金沢・松江)が、松江城を中心とした周辺7か所で催されているということで、着物姿の女性の姿を拝見できた。(松江はお茶の街)。



色づきを見せ始めたお堀の木々を眺め、深まりゆく秋を愉しみながら、国宝松江城→松江歴史館→小泉八雲記念館・旧居、そして松江城のお堀をめぐる堀川遊覧船の渡船場、大手前広場乗船場からは遊覧船に乗って、お国同士の交流を深めた。

約50分間の「ぐるっと松江堀川めぐり」の遊覧を終え、渡船場の隣にある地ビール館において昼食をいただき、2日間の交流会を終えた皆様たちは、それぞれの国へとお発となられた。

八雲立つ出雲八重垣妻籠みに
八重垣つくるその八重垣を『古事記』 #1



島根での地区交流会に参加して

同窓会連合会 副会長 須藤 國夫



10月28日、29日に島根同窓会が幹事で開催された中国・四国地区交流会に参加いたしました。たぶん、中国・四国地区交流会に参加するのは、広島で開催された時以来の9年ぶりかと思います。

当初、私は山陰地方への列車は夜行の全席指定のサンライズ出雲しか知らず、1ヶ月前に指定席券を購入に行きました。そうしたら全席売り切れで、寝台車もグリーン車も売り切れでした。これでは島根に行けないとあせりました。自宅に帰って調べ直したら、新幹線で岡山まで行き、そこから特急やくもで島根へ行くコースがありました。但し、前泊となります。帰りもそうかなと思いましたが、帰りはなんとかその日に宇都宮まで帰ることができるとわかりました。翌日、指定券を購入に行ったら楽勝でした。どうせ前泊になるのならと新幹線はゆっくりとしたひかり507号にしました。

27日は宇都宮から東北新幹線で東京まで行き、そこから東海道新幹線で岡山までいきました。そして岡山の隣の中村晃子の歌「倉敷・涙も匂う町」で思い出す倉敷に宿泊しました。

28日は朝、特急やくも5号で松江に行きました。列車はとても混んでいました。中国山地をゆっくりと北上しました。車内アナウンスのあった大山は残念ながら雲に隠れていた見えませんでした。

JR 松江駅前では案内係の方にバスで行くとのこと、バスに乗ったらどうもおかしい、JRの南側に行ってしまいました。間違った路線のバスに乗ったようです。全員途中で降り、戻る方向のバスに乗り無事会場に到着しました。(残念ながら遅刻となりましたが)中々経験できないハプニングでそれなりに楽しかったです。交流会に参加しました。講演会や情報交換会とても良かったです。(詳細は他の方の記事にお任せいたします。)また、皆さまの関心の高い助成金に関する質問に丁寧にお答えして、理解を深めていただけましたことは担当者としては嬉しい限りです。

懇親会に参加しました。なごやかに和気あいあいと会話が弾みました。恵比寿さまの出し物もありとても素晴らしかったです。私個人的に



は、♫のことばでお礼の歌を歌ったとき後方の女性方がエールを送ってくださったのが印象深く、心に残りました。その夜は会場とは別のホテルに泊まりました。

29日は、少し足を痛めていたので、集合場所ではなく松江城前で合流させていただきました。

国宝松江城・松江歴史館コースを見学。松江城の敷地内を見学しました。宇都宮城のように跡形もなくなってしまう県と、何とかお金を出して残したところの違いは何なのでしょう？島根県が羨ましく栃木県民としては残念でなりません。松江歴史館を見学して次に八雲記念館・旧居コースを見学。子供のころに学校で学んだことのある小泉八雲の功績やその施設を見ることができて感激しました。今でも人気があるのには驚きました。(入館料を助成金の対象としました。)

最後に堀川遊覧でお濠を遊覧船で見物しました。時間の関係で昼食会は欠席としていましたが、竹下会長が駅まで車で送ってくださることで時間ができましたので、昼食会にも参加いたしました。但し、私だけ別メニューで



カレーライスを食べました。みじめな私におそばを譲ってくださった方ありがとうございました。おいしかったです。食事の際、コロナウイルス感染症の流行のため祝賀会に参加できなかったのも、残念だとのお話を聞き、令和6年3月に東京新宿の京王プラザホテルで開催されます卒業・修了祝賀パーティには、過去に中止のため参加できなかった方の参加を認めることといたしました。是非ご参加ください。

島根の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。またお会いしたいですね。

追伸：松江駅の喫茶店で鳥取同窓会の皆さまと話に夢中になり、列車に乗り遅れそうにもなりました。

交流会の開催に取り組んで

実行委員長 石川直樹

今回は実行委員長という大役を任せられました。参加された皆様からは心温まる言葉をいただき、ひとまずほっとしているところです。

これは各実行委員の方々の努力によるところが大きであり、大変感謝しています。冷静にな

って振り返ってみると、成果もありましたが反省すべき点多々あったと思います。

成果としては、役員以外の会員の方に大会に参加していただいたことです。行事に人が集まらないなか、会員が集まり大会成功に向かって力を合わせたことは大きい成果だったと思います。結果として他県の方に島根大会を楽しんでいただけたと自負しているところです。

反省としては、計画の詰めが甘く最後は人力で何とかせざるを得なかったことがあります。今後の行事に生かしていきたいと思います。ともかく、久しぶりに大きな行事に会員の皆様とともに取り組み、無事完了させたことは今年一番の成果でした。

放送大学本部 岩永雅也学長

空港からの送迎ありがとうございました。

小泉凡先生のお話が大変面白く、時間の経つのも忘れるほどでした。

懇親会もとても楽しく、会長の踊りも楽しませていただきました。これからも、都合のつく限り、地域の皆さんとふれあう機会を持ちたいものだなあとつくづく思いました。

同窓会の皆さまにも宜しくお伝えください。

連合会会 南谷雄司会長

島根同窓会の皆様素晴らしい地区交流会ありがとうございました。

講演会小泉八雲については後の記念館等併せて非常に良かったです。

更にハイブリッドで公開講演会にすれば更に多くの方に参加いただければ良かったと思います。

島根同窓会からの事前メール送信資料は詳細な全てが網羅された資料ではなく、困りました、事前配布送信資料に課題がありました。

当日配布資料はしっかりしていました。情報交換会、余興、松江城、小泉八雲記念館、昼食等については大変素晴らしいものがありました。

懇親会では、演技が素晴らしく学長との記念写真も良かったです

連合会会 須藤國夫副会長

地区交流会では、非常に手間を掛けられました。そして心のこもった歓迎をいただき、本当にありがとうございました。

島根同窓会の皆さまによりしくお伝えくださるようお願いいたします。

(個人的感想ですが、できれば来年度の中国・四国地区交流会にも参加したいと思いました。) 別稿として感想を寄せていただきました。

鳥取同窓会 安田直人会長

2日間に渡る地区交流会のおもてなしありがとうございました。非常に楽しい時間を過ごすことができました。

岡山同窓会 河上勝利会長

交流会の際は大変お世話になりました。交流会では課題は何処も同じような悩みであることが確認できたことと学長の将来構想も聞いて良かったです。

また松江城・堀川遊覧もとても良い企画でした。有難う御座いました。

山口学友同窓会 山根雅明会長

島根同窓会の皆様、交流会の際には大変お世話になりました。

各同窓会のやっている事や悩み等々を拝聴して大変勉強になりました。

2日目の松江城を中心とした見学や堀川遊覧などとても有意義な時間を過ごさせていただきまして大変ありがとうございました。

徳島同窓会 柳本 聖会長

インクルーシブ、多様性がトレンドの現在、小泉凡先生のご講演は有意義でした。

なにぶん時間が両日とも半日しかないのですべて盛り込むのは厳しいですね。交流会での質疑の時間が少ないのはいつもながら残念です。連合会の総会でも同様です。私自身はしゃべるのが苦手なので助かりますが、質問のお返事が十分にいただけないのは悲しいです。Zoomでプレ交流会を開催しておき、当日の議題を作成しておくというのも一案ではないかと考えました。

兎にも角にも多大なお接待をいただき、皆様大変満足されたことと思います。

お疲れ様でございました。

香川ほうゆう同窓会 宮北 薫会長

楽しい、そして心に浸みる会に参加させて頂きまして本当に有難うございました。

学長先生がいらして、会はピリ・ピリと締まり、これぞ「ブロック会」と感じました。同窓会会長、副会長もお越しになり感激です。

小泉凡先生の講演も他では伺えないことです。

後の会では、写真をご一緒に取っていただき、島根のカメラマンさん、忙しかったと拝察です。

竹下会長様の“恵比寿”は思いもかけない登場で、日本中で誰も出来ないことです。会の進行、行事の進行も素敵でした。

一人一人の名札に至るまでお配慮、お抹茶のおもてなしは嬉しく頂いて、この上ない喜びでした。島根の皆様におもてなしの感謝を申し上げます。来年は「香川」です。どうぞお待ち申し上げます。

愛媛同窓会 坂東史郎会長

去る10月28日～29日の交流会では、大変お世話になりありがとうございました。

28日の会議・懇親会は大変有意義なものとなりました。

翌日の研修活動では松江市の歴史や文学・文化を解りやすく解説していただき、また堀川遊覧でゆったりと松江城の周辺の景色を堪能させて頂きました。

その上、当日の写真をDVDにてお送りいただきました。感謝申し上げます

高知学友同窓会 池 昭満会長

このたび、松江市におきましては大変お世話になりました、ありがとうございました。お陰様で大変実り多い交流会になりました。

また、早速に写真DVDをご送付いただきまして、重ねて厚く御礼を申し上げます。当会の活動記録として、有難く保存させていただきます。

実行委員の皆さまより

宅和由男さん

私は、初日の会議の部分しか参加していませんが、参加させていただいた正直な感想は、よくここまで出来ましたねえ。という驚きでした。

案内の文書。会場の手配や会場設営。記念講演の内容。参加者へのお土産。休憩時間のお茶のサービス。時間をうまく使って終わった会議。

私は連絡を受けて、当日の会議での補助的作業をさせていただいただけだったのですが、皆さんは準備段階からしっかりとお役目をこなされ、参加した皆さんが満足そうにされていたのも、すごいなあと感じました。

他都市での開催がどのようなものであったかは、参加していませんのでわかりませんが、今回の松江での交流会は全くひけをとっていないと想像します。

みなさん本当にお疲れ様でした。

川上美里さん

5月に新型コロナが5類に移行され、人々の交流が可能になり、どことなく穏やかに過ごせるようになりました。感染者の増減はあるものの、安全対策を施し用心をしたうえで、10月28日(土)サンラポーむらくもで中国・四国地区交流会島根大会が開催されました。元同窓会役員として陰ながらお手伝いをすることで、忘れかけていた「学び」を思い出すきっかけになり一言書かせていただきました。

岩永放送大学長の講演の中で、ライブWeb授業が年々増えていることが報告されました。私自身も放送大学に行かなくても自宅で受講でき

ることや、レポート課題が多く組み込まれていて、深く考察する機会に恵まれたことを思い浮かべながら拝聴しました。

今後、生成AIの活用に向けて検討を始めていること、高校生が例えば夏休みに学習する機会になるなど若年層の受講者が増えつつあることなど、新たな試みを知ることができました。

そのほか、生涯を通じて学び続けることや、社会貢献としての講座を継続すること、放送大学創立40周年の準備など理解を深めました。

休憩時間は皆様にお抹茶を提供しました。松江は歴史적으로お茶所でも有名ですので、是非お抹茶を味わっていただきたい思いで、役員一同時間をかけて話し合い準備してまいりました。

この日の出会いこそが一期一会であり、各地区の同窓会の情報交換会に繋げることができたと思います。

翌日の交流会(松江城周辺の歴史・文化史跡の探索)には参加できなくて申し訳ありませんでした。現同窓会役員の方々は計画から終了まで気の抜けない多大なご苦勞があったことと察し致します。微力でしたが陰ながら協力させていただきましたこと感謝いたします。

佐藤ひばりさん

この度の放送大学同窓会中国四国地区交流会島根大会は、いろいろな意見が出て有意義な情報交換会ができたと思います。

開催にあたり役員の皆様は打ち合わせを重ね、交流会の流れを考慮した資料作成など本当にお疲れさまでした。迎える側の「おもてなしの心」では文化部の古帛紗でお抹茶のお点前や会長の石見神楽で会場がにぎわって島根の良さを知っていただけたと思います。

私は体調を崩したため途中からのお手伝いになりましたが、役員の皆様から暖かい言葉をかけていただき本当にうれしく思いました。

中国四国地区の交流会を通して放送大学島根同窓会の交流がさらに深まってよかったと思います。

三島俊行さん

私は、半日のみの参加で、失礼しました。今回の交流会は、素晴らしい内容だと実感しました。竹下会長の類まれなリーダーシップと実行委員の皆さんの心のこもった準備と実行の成果だと思います。

小泉凡さんのおっしゃった「オープンマインド」を今回の交流会が体現していたように思います。竹下会長の功績がまた一つ増えたんだと思います。お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

学習センターと同窓会の社会活動

「しまね大交流会 2023」に参加

副会長 石川直樹

令和5年11月5日(日)学生、生徒と企業、自治体、教育機関、企業等との交流の場として、しまね産学官人材育成コンソーシアム主催の「しまね大交流会 2023」が、くにびきメッセで開催され、島根学習センターから同窓会に協力要請があり会長と副会長が参加した。



近年はコロナ禍もありオンライン開催となっていました。今年も山陰両県から144ブースで企業・団体・大学・高専が出展し島根学習センターもそのひとつとして参加した。約1,400名を上回る参加者があり、放送大学のブースにも大学生、高校生、専門学生などが立ち寄り、放送大学の特徴などを説明しました。

同窓会は聴講者集めや、チラシの配布、補足説明などの協力を行った。感想としては、前回より高校生・専門学校生の参加が少なかったように思った。

例年思うことですが、高校生や専門学校生への参加を促してもよいと思った。また、学習センターとしてブースへの呼び込みのため、興味を引く工夫も必要と感じた。

業種別ベストブース

業種	No.	出展団体名
IT・通信	115	フェンリル株式会社
コンサルティング・調査・専門サービス	13	株式会社エブリプラン
ホテル・フードサービス・レジャー	4	出雲玉造温泉 白石家
ものづくり・開発系	5	出雲村田製作所
医療・福祉・ソーシャルビジネス	67	島根県社会福祉事業団
官公庁・関連団体	63	島根県
教育・学習支援	60	株式会社しぎだ・教育研究所
金融・保険	46	山陰合同銀行
建築・建設・運輸・エネルギー	57	JR西日本
出版・映像・マスコミ	47	山陰中央新報社
大学・高専等	122	放送大学島根学習センター
農林・水産・食品メーカー	50	(株)山海
流通・小売	131	株式会社みしまや

前回は大学・高専等で得票数が出展業種別ベストブースで1位でしたが、今回も大学・高専等で得票数業種別ベストブースで1位となり、地域の中で若者たちの関心が高いことを示している結果となった。(竹下)

第6回地域貢献活動

さんいん環境キャンペーン森林保全活動

大田市 知野見孝信

10月21日、「山陰環境キャンペーン・2023年度森林保全活動」が、企業の人達や、親子連れの子供や、そして放送大学同窓会からも参加して、小雨の降る中行われた。



この活動は、2002年より始まったという[島根県民参加の森づくり・山陰環境キャンペーン]。そして此処の「葉子山」での植樹は6年目になるそうだ。

森林組合の職員から「30センチ程度の深さに掘って、一本ずつ植えて下さい」との説明とともに赤松の苗を先ず5本ほど手にして、植栽の準備が出来ている共有林、「葉子山」の斜面へと向かった。

防寒着に雨合羽の、放送大学島根同窓会の竹下会長や石川副会長の姿が見えた。合羽を出して合羽を着こんで、ぶら下げたカメラは合羽の下へ入れて、長靴に軍手の姿で山の斜面へと向かった。

CO2の脅威が全世界中に認識されて、そして地球規模での気候変動がアチコチで頻発している今日の情勢に、主催者から「緑あふれ、水が輝く郷土島根、鳥取の豊かな自然を次の世代に引き継いでいくことは、この地域で暮らす私たちの責務です」との呼びかけに、総勢90名の人々が集り、今回は山桜がなく赤松の苗500本すべて事故もなく無事に植えた。



湖が見える場所に駐車をして、先程いただいたお茶とパックに入った稲荷ずしと巻きずしとを爽やかにほおぼった。



(11月20日付山陰中央新報)

放送大学学長表彰授与 の会員を訪ねて⑥

2023年度第2学期卒業 松江市 竹下靖彦さん



今回(11月16日)、放送大学島根同窓会の会長でもある竹下靖彦さんを、学習センター第一講義室において広報部知野見がインタビューさせていただきました。

一この度は「名誉学生」となられましたこと、おめでとうございます。

前は奥様が名誉学生ということで、2021年にお訪ねをいたしました。ご夫婦そろってのご快挙。本当におめでとうございます。

竹下さんは明晰な頭脳と人をまとめる力。そして豊かな社会経験と人間性をお持ちの方であると日ごろから、私達はそう認識をいたしております。

今日は生い立ちのこととか、一寸無作法なことかもしれませんがご経歴のこととか、そんなことをお尋ねさせていただきたく思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

一名誉学生になりましたが、ご感想をお聞かせください

竹下：入学した当初には、卒業をするという考えは全くありませんでした。時間をもてあます毎日でもいけないとの思い、2007年に国の高齢者大学校「くにびき学園東部校」に入り、1年経過後に、妻が在学していた放送大学に妻から勧めもあり、躊躇なく入学しました。名誉学生には選科履修



生2年間を含め、16年を要しました。

私は中学3年生時父親を亡くし、母親と子ども7人が残されたので、新制中学卒で社会に出ました。いきなり全科履修生の入学条件には該当せず、選科履修生となって18単位以上を取得しなければ全科履修生として入学が認められないため、選科履修生となり1年目で17単位を取得しました。

当時は卒業を目指す考えはなく、2年目も引き続き選科履修生として在籍をし、この1年間で21単位を取得し、2年間で計38単位となり、3年目の2009年に全科履修生として「人間と文化コース」でスタートしました。

私は電気工事会社と医療関係に従事してましたので、日頃から日本国憲法のすばらしさ、社会保障制度、健康保険法、医師法、労働組合法などについて認識を深めていましたから。

一なるほど日ごろからの努力というものがあるからいざというときに役に立つことなんですね。つまり、その人が日頃からどんな方向を向いて生きているかということなんですね。漫然と、その日暮らしのような生き方をしているのか、あるいは絶えず自己研鑽を怠らずに生きているのかということが大事なことです。竹下：お医者さんに診療報酬の仕組みや各種の制度について、説明や解説をするため日々研鑽をする状況でしたから。お医者さんというのは案外社会的常識に疎い方がおられますので、その辺りをキチンと説明をして納得していただくために、憲法や医事法などの基本的な法律を知っておかなければいけませんから。

一お医者さんというのはプライドをもっておられますから。そういう方々を相手に話を聞いていただくことは、コレは大変なことじゃないかと想像できます。

竹下：特に医療法については、東大や順天堂大学や厚生省の官僚にも直接出向いて、直々に講演をお願いもしましたので、「学ぶ」という機会は日常必要不可欠でした。

また国会議員に対しては陳情や署名の紹介をお願いに行きましたので、法律関係には比較的楽に取り組むことができました。

一お医者さんをはじめ色々な人と交渉話をされて、それで纏めてこられたということは、結局学んだ知識も勿論大事ですけど、竹下さんという人が物事を纏めてこられたと思うんです。「アッコの人の話だったら聞いてみよう」ということジャーないかと思えます。「理屈で人は動かない」と同じことですね。

竹下：保険医協会というお医者さんの組織で、島根・鳥取で長い間事務局長をしていたからでしょうね。



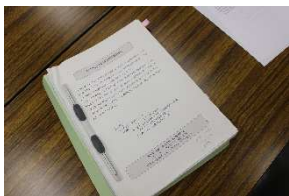
—事務局長という存在。それ自体が誰でもできることではありませんからネー。毎日をどういう意識でもって生きているか。これは本当に大事なことなんです。

竹下：再入学を5回で10年。本科生での4年間。その前に選科生で2年間いたので、結局16年ということですね。

2コース目の「社会と産業コース」の履修では、島根大学へ単位互換制度を利用して、放送大学と並行して、若者とともに授業を受け、単位も24単位取得してましたので、単位の先取りということができていた時代ですね。

—名誉学生という意識は、何時ごろから持たれましたか。

竹下：1回目の卒業で答辞を依頼された時に、ついグランドスラムを目指すと言ったからですね。ところが残念だったのは、2016年度から新カリキュラム変更で、今まで取得していた2コース分57単位がすべて無効となったことです。



私はそこで大学に対して、情報公開制度を使って、新カリキュラム変更に至った公文書の情報公開を求めました。結果は大学本部よりその記録としてのCDが送られてきましたので、それをすべて紙面にプリントアウトして（竹下さんはファイルに閉じられた分厚い公開資料を見せられました）綴じています。

それを見て「アアこんなことを検討していたのか」「何故4年間もWGにて検討していて、途中学生に周知せずいきなり新カリキュラム変更という形で実施に至ったのか」と怒りを覚えました。

結局根拠は単位の先取りで、条件を満たしていれば、一度も大学に来る事なく卒業できるというシステムを、本部としては危惧したのでしよう。

—グランドスラム達成後の毎日は、どうお過ごしですか。

竹下：そうですね、グランドスラムを達成した者が放送大学に在籍をして学ぶ方法は、選科か、科目履修しかない訳です。今は選科履修生として在籍をしています。サークル「古文書を読むの会」を立ち上げています。

大学も、名誉学生に対してはそれなりの対応を考えて欲しいですね。例えば面接授業にはフリーパスで受講できるようなこととか、学習センターにもフリーパスで来られるとかということですね。



併せて岩永学長には、連合会総会の折や、先般開催した中四国地区同窓会交流会でも、学長に要請しましたが、新カリキュラムで卒業単位



が僅か16単位というのはあまりにも少なすぎるので、以前の30単位で卒業に戻して欲しいということですね。

—私もそのことについては同じ考えですし、そういう考えを持っておられる人は他にも沢山おられると思います。

—先に奥様を取材の折に、「オシドリ夫婦ですね」と申し上げたら、オシドリでもなんでもないですよと言われました。でも私たちは矢張りそう見えますけど、これについての異論はありますか。

竹下一家内が言ったように、オシドリでもなんでもないですよ。毎日小さな喧嘩はしてますよ。原因は自分が悪いんですけど。つい傷口に塩を塗るようなことを言ったりしますからね。でも結婚をして一緒になって50年で、何とか金婚式も済みました。

—竹下さんは過去の「たたら誌」で、自分は中卒と書いておられましたが、社会の中で中卒ということ悔しい思いをされたことなどありますか。またそんなことで、忘れられないような出来事などはありますか。

竹下：中学3年生の12月に、父が交通事故で亡くなりました。7人兄弟の長男でしたので高校進学組にりましたが、下に弟や妹たちがたくさんいましたので、高校進学ということは諦めざるを得ませんでした。当時は進学組から就職組へと変わることとなり、辛かったですね。



本当は近くの江津工業建築科に行きたかったんですね。理由は、設計は「無」から「有」を生み出す人間の想像力に魅力を感じていましたから。

そして中学を卒業して3回目に就職をしたのが電気工事会社でした。先ず一番に感じたことは、同じ仕事をするのに、中卒と高卒とでは賃金に格差があることでした。それなら社内の資格をすべて取ることで、権利と尊厳を守る労働組合に挑戦をしました。

—好きな言葉または尊敬される人物・愛読書などがありましたらお教えてください。

竹下：愛読書と言えらると思いませんが、藤沢周平の時代小説なんかは良いですね。68冊ばかり単行本を揃えています。藤沢周平は描写が上手い人ですね。例えば風の動きとか、街の臭い、市井の庶民、武士道、季節感、また人情モ

ノが多いんですけど、なるほどそうかと思わせるような手法ですね。

「蝉しぐれ」という映画がありまして、それを見てから藤沢周平という作家は面白いナーと感じました。単行本を1冊ずつ揃えて読んでいます。



今ハマっているのが元総理大臣石橋湛山です。保阪正康という人が資料を集めて書いた『石橋湛山の65日』という本です。

戦後政治の駆け引きなどについて記しています。例えば吉田茂、岸信介など戦後の政治家の固有名詞を、そのまま記述しているところなどです。それからもう1冊は半藤一利の『戦う石橋湛山』です。

「過去を振り返らずに・・・」(前だけを見て)ということばがありますが、私は好きではありません。何故なら過去が存在しての現在だからです。「過去はチャラよ」なんていうのはあり得ず、政治家たちの話です。

一私もその考えには同感です。ジェームズ・アレン著の『原因と結果の法則』という本がありますが、凡そすべて原因があつての結果であり、過去があつての現在であるからです。

(「とても多くの人たちが、表にあらわれた結果だけに目を奪われ、その背後に存在する原因をみようとしないうちに、あらゆる偉業を、幸運、運命、あるいは偶然などという言葉で片づけようとしています・・・あらゆる真の成功が、気高い目標と正しい努力の結果であり、そこにはいかなる偶然もありません。『原因と結果の法則』より)。

竹下:私は「自ら過去を正しく評価」をすれば、それなりに他人からも評価される。

一ご趣味で野菜作りをされていますが、他に絵の鑑賞もご趣味でしょうか。学習センターの談話室の中に、竹下さんからご寄贈をうけた沢山の絵画の本がありますが、何冊くらいありますか。また本はフルカラーでコート紙のため、かなり値が張るものだと思いますが・・・

竹下:確か110冊ばかりある筈です。仕事で東京に度々出かけたときは、美術館へ立ち寄って絵の鑑賞をした後に、必ず求めてきたものです。金額にすると30万円は超えます。

一最後に私達後輩に対するメッセージをお願いします。

竹下:私自身への自戒ということでもありますが、なんのために放送大学へ入るのか、そして放送大学を出たら何をするのかということ



すね。学んだことを自分の知識としてだけで終わらせるのか、学んだことを社会に対してどう活かしていくかということですね。それが教養大学として、放送大学の在り方だと思えます。

私は30年間市民オンブズで事務局長を続けていますので、参考にしてもらえると大変うれしいですね。

一取材を終えて一

大相撲の千秋楽において、優勝した力士に賜杯が手渡されるときに、「賜杯にその名を刻し、永くその名誉を表彰します」という文言が述べられる。

島根学習センターにおいて、今回8人目のグランドスラム達成の「名誉学生」となられた竹下靖彦さんは、2021年(令和3)、先に4人目の「名誉学生」となられた奥様竹下孝子さんと一緒に、歴代の名誉学生を称える盾にその名を刻され「永くその名誉を表彰」されました。

(皆さん学習センターに来られて、名誉学生全員の名前が刻まれた盾。窓口に掲げてありますから、是非ご覧になってみてください)。

また竹下さんはそうじゃないと言われましたが、学びという同じ目標に向かって伴に歩まれ、そしてご夫婦そろっての名誉学生となられたというこのことは、矢張り、「オシドリ夫婦」であり、まさしく私達の理想とする「学び」の姿でもあります。どうぞこれからも末永く「学び」の道をご夫婦健康で、伴に歩まれることを祈念いたします。

地区会員の近況報告 (鳥取西部地域 3)

卒業後の私

//学んだ知識を地域貢献活動へ//

大山町 阿部 誠

昨年、私は放送大学教養部「自然と環境コース」で動植物の生態系や中世の歴史等を学び、エキスパート認定



大山山頂

制度の「自然系や歴史系博物館活動支援」、 「宇宙地球や生命人間・環境科学」等の7プランの認証状と学位を取得して卒業しました。

放送大学で学んだ知識を、国立公園大山や妻



孫と馬

木晩田遺跡の観光ボランティアガイド、また地域の子供たちの自然観察会や公民館活動等、大山町の地域社会活動に役立っています。

更に稲作を中心とする農業の傍ら、自家野菜を栽培し、その作物の成長を観ながら収穫時の喜びや落胆と、同居している孫の世話をしながら日々楽しんでいます。

現在、力を入れているのが、自然観察指導員（NACS-J）としての観光ボランティアガイドです。退職後の第二の人生として、仲間と共に大山町全体の「観光ボランティアの会」を立ち上げて17年目で、会長として9年目になります。コロナによる中止もありましたが、20名前後の会員で、昨年までに累計18,000人のガイドをして、大山町の観光産業に貢献しています。今後も会員増やガイド知識の向上を深めて、会を発展させて行きたいと思っています。

独立峰大山は、その厳しい自然の中で逞しく生きている動植物、また霊山として奈良時代からの長い歴史、更には景観・地形・文化・神話・文学等、四季ごとに数多くの魅力があります。総合案内をする中で、特に「ブナの森ウォークの自然観察」や「大山寺1300年の歴史探訪」は人気があります。一期一会の気持ちでガイドをしており、お客さまとの別れの時「ありがとうございました」の感謝の一言に喜びと充実感を得、明日への活力につながっています。

地域の公民館活動では、家族連れの自然観察や歴史探索をしながら、地元の孝霊山登山をしました。子供たちは虎の尾に似た白い花の「オカトラノオ」を見て、虎ちゃん、虎ちゃんと合唱しながら元気よく登り、途中、昼間のホテルの「オバボタル」、目が退化した「モエギザトウムシ」、危険な毒蛇の「ママシ」にも遭遇するなど、様々な生き物を観察することができました。

山頂で食事をし、大山や隠岐の島が見える絶景の中、「キアゲハ」や「アオスジアゲハ」が数多く花に舞い子供たちの帽子にも止り、豊かな自然との触れ合いがあり、また、孝霊天皇の鬼伝説・韓の国との山比べ・古城跡の歴史解説等を楽しみました。

これら大山町には数多くの歴史的遺産等があり、また、大山は、北方・南方系の多様な動植物が混在生息しており、ガイドや観察会をするなか、好奇心を持って新しい視点で見ると色々な発見ができ、面白さと自然の奥深さに感動しています。



ガイドの会の研修会

これからも学んだ知

識を地域社会に活かしながら、様々な機会を捉え生涯学習を続けて行きたいと思っています。

～同窓会からのお知らせ～



新会員のご紹介

(2023年4月～2023年9月)

2023年度第1学期卒業

◎情報コース 伊瀬孝子さん(松江市)

◎人間と文化 長島 博さん(出雲市)

放送大学 学生サークル

『古文書を読む会』

サークル代表 竹下靖彦



佐々元
所長から
かねて学
生団体設
立へ同窓
会に協力

依頼があり、学生団体として申請し認可を受け、活動に取り組んだ。

講師による解説は、「松江藩郡奉行所文書」1750年頃から1883年までの129の民事訴訟案件の記録が現存し、特長は訴訟の始まりから解決までの文書は全国的に貴重である。

現在「田部長右衛門山論御裁許之儀願立候書面」から『鑪製鉄に使用する浅原村の腰林からの焼炭の買上げに伴う田部家との争い』から開始し、12回目にわたり文書を原文（控え）と講師の「読み下し文」と照らして

読んでいる。原文だけでは難しく敬遠気味ですが、読み下し文がありますので、初めての方にも容易に楽しめる。

活動ですが、高齢者が多数のため体調不良や死亡のため会員が減少しているため、学生団体維持のため参加をお願いする次第です。

会費は月額500円を6ヶ月分(3,000円)前納となります。詳細は下記の代表者竹下までお問い合わせください。

電話：080-3056-0487 まで

『サークル・表現の会』

サークル代表 知野見孝信

島根学習センター元所長、足立悦男先生主催の「だんだんサロン作文の時間・おしゃべり会」が丁度10年を迎えたことからこの度、会の見直しを計ることとしました。そして昨年10月からリニューアルして、「だんだんサロン・表現の会」を発足させました。

「^{はじめ}太初に言葉あり、言葉は神とともにあり、言葉は神なりき」(ヨハネ伝第1章第1節)。

聖書にも在るように、宇宙の始まりはこのように言葉によって始まり、そしてその「言葉」とは神でありました。

リニューアル「だんだんサロン・表現の会」規約第2条(目的)には「本会は、話す・書く表現活動を通して、コミュニケーション能力を高めるために、月1回開催する」としています。

また活動の内容を定めた規約第3条には「本会は、前条(2条)の目的を達成するため、次の活動を行う」として、①(おしゃべり会)話し合いを通して話しことばの表現力を高める。②(作文の時間)作文を落として文章表現力を高める。③話し合いを通して豊かなコミュニケーション能力を見につける。としています。

すなわち、私たちは言葉(話し言葉・書き言葉)を通してコミュニケーション能力を高め、そして人格を高め、更にはソレ(言葉)によってバイブル(聖書)にもあるように「神」にまで近づこうとする気高く崇高なサークル団体であります。(とは言っても、宗教団体ではありません)。

文章を書いたり、ともに語り合ったりしてみませんか。



(奥出雲・雪のループ橋)

◆同窓会の活動日誌◆

(2023年7月~2023年12月)

【7月度】

- 5日(水) 第2回広報部会(Zoom)
- 11日(火) 第1回交流会実行委員会
- 11日(火) たたら発送準備作業
- 12日(水) 第3回古文書を読む会
- 14日(金) たたら発送準備作業
- 14日(金) 会員名簿印刷
- 15日(土) たたら発送
- 27日(木) 学生団体表現の会申請
- 29日(土) 第2回交流会実行委員会

【8月度】

- 23日(水) 第4回古文書を読む会
- 25日(金) 第3回交流会実行委員会
- 26日(土) 学位記授与式打合わせ

【9月度】

- 10日(日) 第2回役員会(Zoom)
- 15日(金) 第4回交流会実行委員会
- 20日(水) 第5回古文書を読む会
- 24日(日) 第1学期学位記授与式
- 24日(日) 第1学期卒業を祝う会
- 24日(日) アカデミックガウン撮影

【10月度】

- 4日(水) 第6回古文書を読む会
- 18日(水) 第5回交流会実行委員会
- 21日(土) 植林ボランティア参加
- 24日(火) 第6回交流会実行委員会
- 27日(金) 第7回交流会実行委員会
- 28日(土) 第9回中四国地区交流会
- 29日(日) 第9回中四国地区交流会
- 30日(月) 第11回通常総会開催

【11月度】

- 5日(日) しまね大交流会参加
- 9日(木) 第8回交流会反省会 Zoom
- 15日(水) 第7回古文書を読む会
- 16日(木) 広報部名誉学生取材
- 20日(月) 連合会助成金説明会 Zoom
- 21日(火) 第9回交流会反省会
- 24日(金) 広報部地域活動者取材
- 30日(木) 連合会助成金計画書提出

【12月度】

- 20日(水) 第8回古文書を読む会
- 26日(火) 第3回広報部会(Zoom)
- 29日(金) 連合会へ地区交流会報告書

同窓会 当面の行事案内

2023年度卒業研究発表会開催のご案内

日時 2024年2月10日(土) 14:00~15:00 (共催: 島根同窓会)
会場 島根学習センター 3階 「第1講義室」
対象者 2023年度において学士による卒業論文発表会です
※論文作成を祝福するため、是非とも皆さんのご参加をお願いします。

2023年度第2学期学位記授与式開催のご案内

日時 2024年3月24日(日) 10:40~11:40 (共催: 島根同窓会)
会場 島根学習センター 3階 「第1講義室」(予定)
対象者 2023年度第2学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん
※卒業を祝福するため、会員のご参加をお願いします。

2023年度第2学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 2024年3月24日(日) 11:40~13:00 (共催: 島根学習センター)
会場 島根学習センター 3階 「第1講義室」(予定)
対象者 2023年度第2学期の卒業要件を満たした学生・修士修了者の皆さん
※卒業者の皆さんで希望される方に、アカデミックガウン着用で記念撮影を開催します。
ご希望の方は事前に同窓会長竹下までご連絡をお願いします。
携帯番号 080-3056-0487
E-mail//yasutake@kfz.biglobe.ne.jp

島根同窓会第12回通常総会開催のご案内

日時 2024年4月27日(土) 13:00~16:00 (予定)
会場 島根学習センター4階「第2講義室」
対象者 同窓会会員、市民、在学生
当日は記念講演を準備中です。(市民公開講座として開催予定)
詳細は講師決定にてご案内します。

～編集後記～

今号は昨年島根同窓会が担当県となり、第9回中四国地区同窓会交流会を開催したことで、その模様を特集しました。次は9年後の担当となるため、記録として保存することで後輩の皆さんに役立つと考え、あえて紙面を増加したため、掲載すべく準備記事が未掲載となりました。取材しました会員、活動を投稿くださった会員の皆さん、誠に申し訳ない次第です。次号に掲載しますのでお許しください。

昨年1年ご支援有難うございました。本年も変わりませずご支援をお願いします。(竹下)